

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700431		
法人名	社会福祉法人 三章会		
事業所名	グループホーム りらく大成		
所在地	河西郡芽室町東芽室南2線16番地2		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年4月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由と安らぎのある中でその人らしさを大切に職員と利用者が一つになり、毎日笑顔と一緒に過ごせる言いたいことを言い合える関係作りが出来たらいいと思います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0194700431-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0194700431-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイソ401号室
訪問調査日	平成27年1月23日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの設備・機能  
グループホーム初期の北欧モデルのゆとりある造りで、広々とした居間を中心とした多様な調度用品、トイレ・浴室等の利便性の高い配置がされている。四季の飾りつけや多温・湿度の管理で、居心地よい和みある場となっている。

2)利用者本位の生活  
職員は明るく、入居者が「自宅のように」安心して過ごせるよう、見守りの姿勢で利用者本位の介護に努めている。

3)運営推進会議  
会議は定例に開催し、事故報告・ヒヤリハットや運営状況を開示して、参加者からの意見聴取に努め、運営に反映している。

4)地区の拠点として  
町内会活動自体がない等の困難がある中、地域のつながりを目的として、事業所を中心に母体の老健施設の協力を得て、地域住民の交流の機会を作るなど、積極的な取り組みを行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のその人らしさを大事にする為職員が、介護にいきづまったときなど、理念を見直しよいケアが出来るように実践につなげています。	「地域の中で、共に助け合いながら安心して生活を送る事のできる場所作りを目指し、ゆったりとし自由な暮らしを大切にします」を隣接のりらく藍・麻との共通理念とし、職員間で共有することで、質の高いサービスの実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の居住していた地域の町内会に出席して頂いたり、買い物など外出したりしています。	町内会活動自体がない地区において、母体である老健施設の協力を得て、地域住民へのホームへの理解と交流に積極的に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人の勉強会に参加させて頂いたり、地域で開かれているメモロカフェに参加し、地域の理解、協力をお願いしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を行い報告し、話し合いや意見交換を行っています。	行政・家族代表・地域住民代表等が参加し、年6回開催している。会議では、運営状況、事故・ヒヤリハットなどの問題点を明らかにし、参加者からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町で行う会議など参加させて頂き、相談させて頂いたり指導して頂いたり協力関係に取り組んでいます。	メモロカフェへの参加、所定の運営推進会議・事務連絡の他、日常的に相談、情報交換を行い、関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や講演にスタッフが参加させて頂き常に話し合いを行い理解をし拘束しないケアを行っています。	職員は、内外の研修会等に参加し、伝達研修を通じて、全職員が身体拘束のないケアを学んでいる。目配り、気配りに配慮し、日常生活を支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での会議などで常に話し合いを行い虐待防止に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいませんが、今後も研修などに参加し、活用できるように心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解、納得して頂けるように説明し、契約書、重要事項をお渡しさせて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会を開催し交流を深め話しかけやすい環境をつくり、どんな言葉にも耳を傾け運営に反映させて頂いています。	利用者については生活を支える日常から、思いや希望を聞き取り、家族については、来訪時に意見、要望を取り込むように努めている。	意見や要望について、家族会の開催等での集約を大いに評価できるが、来所を基本とした聞き取り以外に、全家族を対象としたサービス満足度調査等、具体的な方法を検討し、実施されるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月に一度の会議を開催し意見の提案をしたり運営に反映させて頂いています。	毎月の全体会議で、職員の意見を聴取する機会を設けている。個別には、随時話し合いで意見等を聞き入れ、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間、職場環境など個人面談などを、行い働きやすい環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加出来るように奨励し、一人ひとりのケアの実際など取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の連携、同業者と交流する機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で、不安のないように寄り添い、安心した関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各担当を決め個別にお話を聞く機会を設け気軽に話しかけやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員や関係機関からの情報を参考にさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、(調理、掃除、洗濯干し、たたみ)など一緒にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、共に利用者を支えていく関係を築くように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人など訪問しやすい環境、なじみの美容室や店に行き関係が途切れないように努めています。	利用者・家族より馴染みの人・場所を聞き、居住していた地域の町内会に出席出来るよう送迎する等、昔ながらの関係が維持出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、居間に集まりゲームなど楽しく参加して頂けるように配慮させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても気軽に訪問して頂いたり、町でお会いした時などはお声をかけて頂き挨拶などしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活スタイルを把握し、利用者本人の立場になった生活に努めています。	利用者との職員の関わりは、個々の目線に合わせて自然で、ケア記録を職員間で共有し、本人本位の生活が送れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を通して今までの生活歴や環境を把握しなじみの暮らしができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの出来ることを把握し個別に対応させて頂いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者と介護支援専門員が中心となり、毎月のフロア会議で意見交換を行い介護計画を作成しています。	介護計画を中心に据えたケアの実践に取り組んでおり、日々、介護目標達成の進捗状態を介護日誌に記載し、把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録に個別に記録し、職員で共用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは老健施設があるため、メリットを生かし本人、家族の要望に柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんなどの訪問を受け楽しいひと時を過ごしたりとしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診、家族本人の希望があれば、希望の医療機関に行くことができます。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、受診内容については個別に記録し、職員間で共有している。通院は希望に応じて職員が同行、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業として看護師を確保しており定期的に巡回、利用者の健康管理、職員の相談にのって頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者やソーシャルワーカーとの連携をとり情報交換や相談をさせて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケア事前指定書を作成し家族には説明を行っていますが、ターミナルケアはまだ行っていません。	重度化、終末期の対応については、契約時や状況に応じて事業所の方針、対応出来ることを説明している。また、状況に応じ、施設入所等の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議などで話し合い、実践を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導、避難訓練を定期的に行い職員全員が協力できるように築いています。	避難訓練は昼夜想定で年2回実施。入居者も参加し、避難方法等の確認、協力体制作りに努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年配者であるということを忘れず、言葉かけなど気をつけた対応を行っています。	利用者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけ、職員会議や研修等の場で共有・理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望の申し出にできるだけ対応できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員の都合で取り入れることもありますが、なるべく一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容など希望があれば、家族、職員でお連れさせて頂いています。着用の際はなるべく本人と相談しながら着て頂くように支援させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のみなさんと無理がないように準備や片付けなどを行っています。	調理から後片付けまで、個々の利用者に出る範囲で手伝ってもらい、日課としている。嗜好等の要望も取り入れ、献立作りに活かしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけた献立、毎日の水分量を把握するために記録をつけています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内うがいなどして頂いていますが、入れ歯を外すのを拒否される方がおり夜は職員がケアをさせて頂いています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の希望でリハビリパンツの方はいますが、現在は殆どの方が布パンツです。尿パット使用されている方で交換を拒否される方がいますが、負担のないような声かけを行い交換させて頂いています。	個々の排泄パターンを職員が記録・共有し、状況に応じた支援を行っている。自立排泄を目標に、トイレ内の手すりの位置、パッド等の使用にも配慮されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎回の自家製ヨーグルト、朝の牛乳、繊維の多い食材の献立を取り入れたりとしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制がある為好きな時間には、入ることが出来ませんが、利用者さんの希望があれば、温泉に行ったりとしています。	週2回以上を目標に、入居者個々の状況に合わせ、希望に応じて無理なく自然に入浴出来るよう配慮、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間までゆっくりと居間で過ごして頂き、夜間眠れないような時は、お話をしたりとし、安心して眠れるように支援させて頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員管理ですが、一人ひとり名前を確認内服するまで、見守りを行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節によって外出、散歩、ドライブなど行い利用者さんのお誕生パーティーなどは、皆でお祝いし楽しんで頂いています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などは行きたい日を決め一緒に出掛けたり、菊まつりなど家族に協力して頂きながら出掛けられるようにしています。	買い物や、散歩、季節感を感じるドライブといった外出機会を多く持つよう努めている。また、個々の利用者の希望に沿って、日用品の買い物、用足し等を職員同行で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の状態、状況に応じて所持して頂いたりとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、電話の使用、手紙などのやり取りはご自由にして頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは太陽の光が常に入り、キッチンからは食事のおいしい匂いが立ち込め、外を眺めると畑があり、季節感がわかる生活感が楽しめるような工夫がされています。	共用空間はゆとりある広々とした造りで、採光もよく清潔に保たれている。利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで居心地のよい環境を作り出している。リビングの飾りは、入居者と一緒に作成し、季節感に配慮したものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と一緒にいても一人の時間を過ごせたり会話がすぐ出来るように居心地のよい空間を工夫させて頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使い慣れたものを持参して頂くようお願いし、家にいるような生活をして頂けるようにお話させて頂いています。	居室は、使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込むことで、環境変化によるストレスが軽減出来るよう配慮されている。各居室の配置にもゆとりがあり、居心地よい空間作りの為の工夫が随所にみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての個所には手すりが付けられ、全室に温水暖房器、火災報知器、スプリンクラーも備えられており安全、安心した生活が送れるように工夫されています。		